

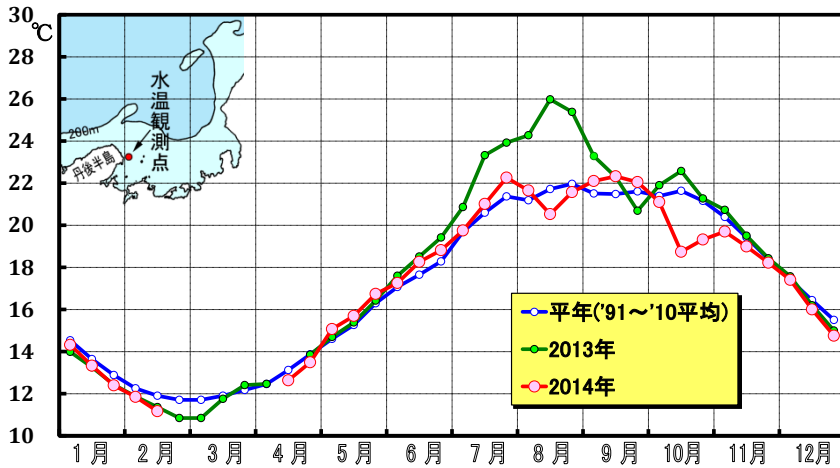
京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況 ～2014 年 1 月から 12 月まで～

表層の水温は、夏季に例年よりやや高めの期間が多かったことを除くと、おおむね例年並みかやや低めで推移しました。

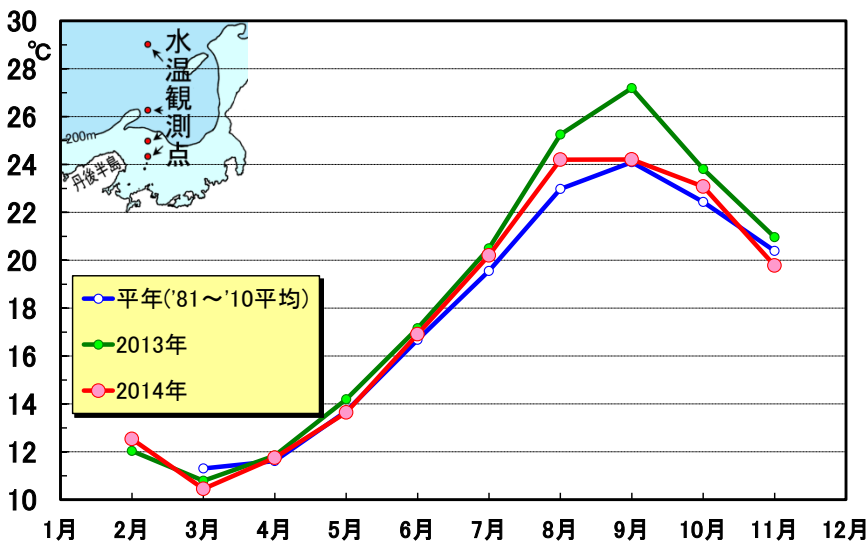
京都府沿岸(伊根町新井崎地先 海深 64m) の水温 (50m 深)



月平均水温と平年差(括弧内)

| 単位: °C | 50m 深 |
|--------|------------|
| 1 月 | 13.3(-0.3) |
| 2 月 | 11.5(-0.5) |
| 3 月 | 欠測 |
| 4 月 | 13.1(-0.1) |
| 5 月 | 15.8(+0.4) |
| 6 月 | 18.1(+0.4) |
| 7 月 | 21.0(+0.5) |
| 8 月 | 21.2(-0.4) |
| 9 月 | 22.2(+0.6) |
| 10 月 | 19.7(-1.7) |
| 11 月 | 19.0(-0.4) |
| 12 月 | 16.1(-0.4) |

京都府沖合の表層水温 (0～50m 深平均)



各月水温と平年差

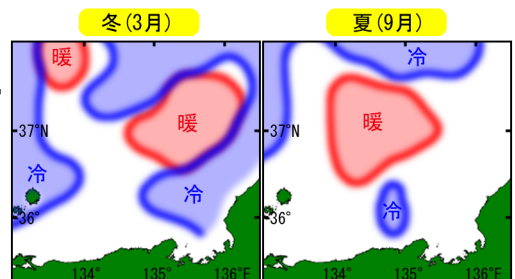
| 単位: °C | 水温 | 平年差 | 評定 |
|--------|------|------|--------------|
| 1 月 | | | 観測なし |
| 2 月 | 12.5 | | データ過少につき評定なし |
| 3 月 | 10.5 | -0.8 | やや低め |
| 4 月 | 11.8 | +0.1 | 平年並み |
| 5 月 | 13.6 | -0.1 | 平年並み |
| 6 月 | 16.9 | +0.2 | 平年並み |
| 7 月 | 20.2 | +0.6 | やや高め |
| 8 月 | 24.2 | +1.2 | やや高め |
| 9 月 | 24.2 | +0.1 | 平年並み |
| 10 月 | 23.1 | +0.6 | やや高め |
| 11 月 | 19.8 | -0.6 | やや低め |
| 12 月 | | | 観測なし |

京都府沖合の水塊配置

資料元: (独)日本海区水産研究所

京都府沖合には暖水域が、その形状を変化させつつ停滞していました。

冷水域は、冬から夏にかけて京都府沿岸にやや接岸していました。

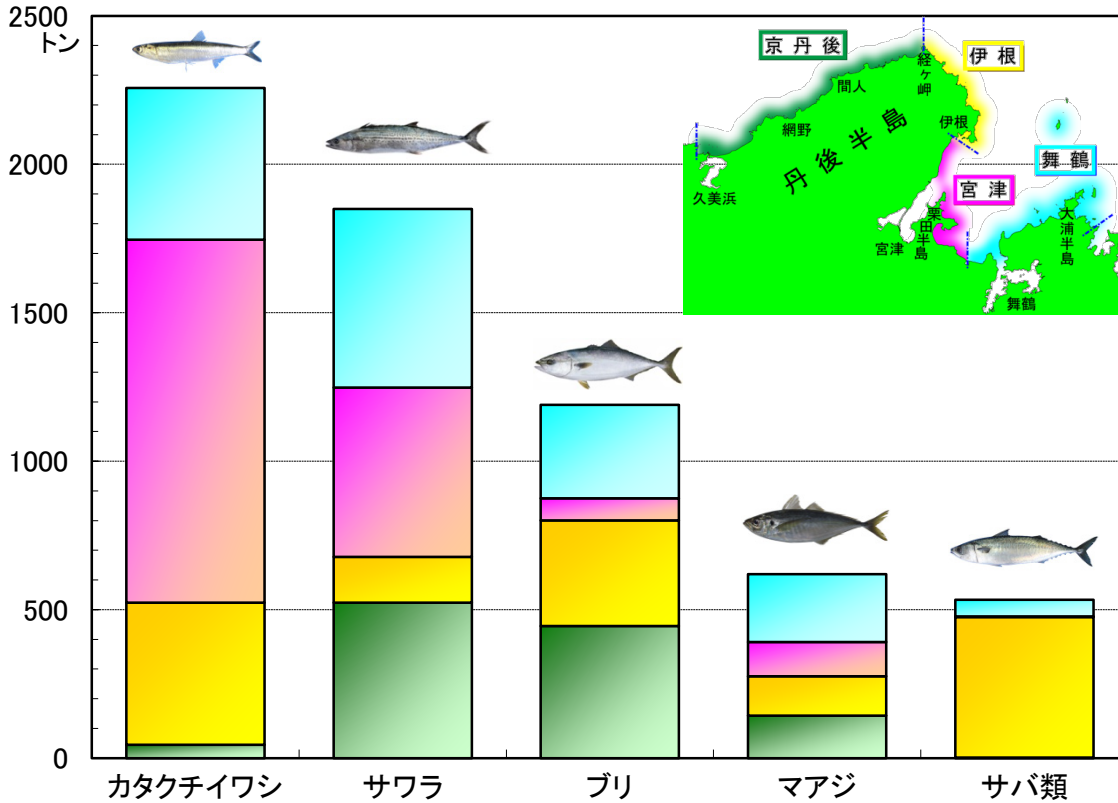


漁模様 ～2014年1月から12月まで～

【定置網漁業】

サワラやサバ類、カマス類などが好漁でした。一方、アジ類やイカ類が例年より少漁でした。全体では平年の9割弱（前年の9割強）の水揚げでした。

2014年の地域別漁獲量(上位5魚種)

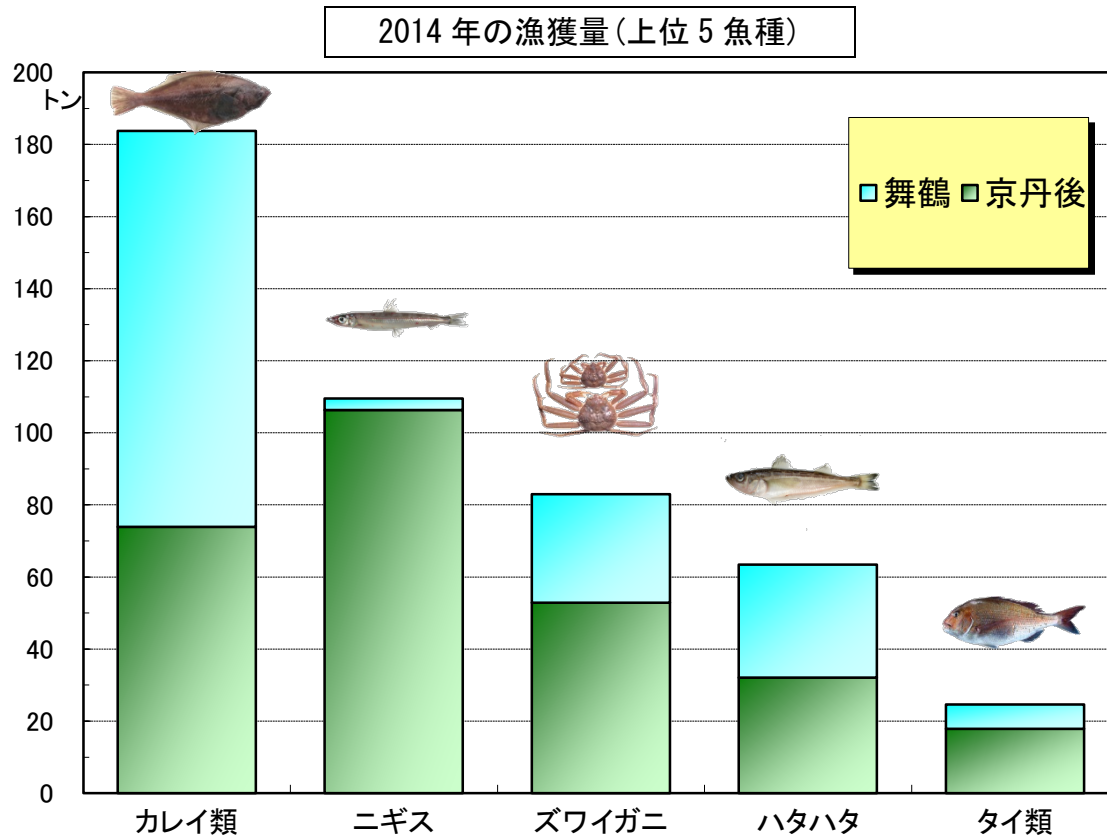


| 年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計 | | | | | |
|-----------------------------|-------|-------------|---------|--------|---|
| 魚種 | 2014年 | 2013年(前年比) | 平年(平年比) | | 備考 |
| カタクチイワシ <small>(たれ)</small> | 2257 | 2265 (100%) | 2501 | (90%) | <カタクチイワシ> 混ぜり銘柄(カタクチイワシの他に小さなアジ類やサバ類、マイワシ等も混ざったもの)も含めて集計。 |
| サワラ | 1850 | 1694 (109%) | 1539 | (120%) | <サワラ> さごし銘柄が1356トン、さわら銘柄が494トンでした。 |
| ブリ | 1190 | 1125 (106%) | 1180 | (101%) | <ブリ> つばす銘柄が919トン、はまち銘柄が61トン、まるご銘柄が142トン、ぶり銘柄が68トンでした。 |
| マアジ | 619 | 705 (88%) | 1872 | (33%) | <イカ類> |
| サバ類 | 533 | 122 (439%) | 302 | (176%) | アオリイカ(秋いか)が103トン、スルメイカが63トン、ケンサキイカ(白いか)が36トン、ヤリイカ(冬いか)が34トン、ソデイカ(たるいか)が27トンなどでした。 |
| カマス類 | 515 | 428 (120%) | 244 | (211%) | |
| イカ類 | 279 | 493 (57%) | 455 | (61%) | |
| スズキ | 136 | 113 (121%) | 111 | (123%) | |
| マルアジ <small>(青あじ)</small> | 131 | 139 (94%) | 264 | (50%) | |
| シイラ | 131 | 193 (68%) | 203 | (64%) | |
| その他 | 1142 | 1960 (58%) | 1598 | (71%) | |
| 合計 | 8783 | 9236 (95%) | 10270 | (86%) | |

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

主要な魚介類は、ニギスを除いて例年よりやや少漁気味でした。全体では、平年の8割（前年の1.1倍）の水揚げでした。

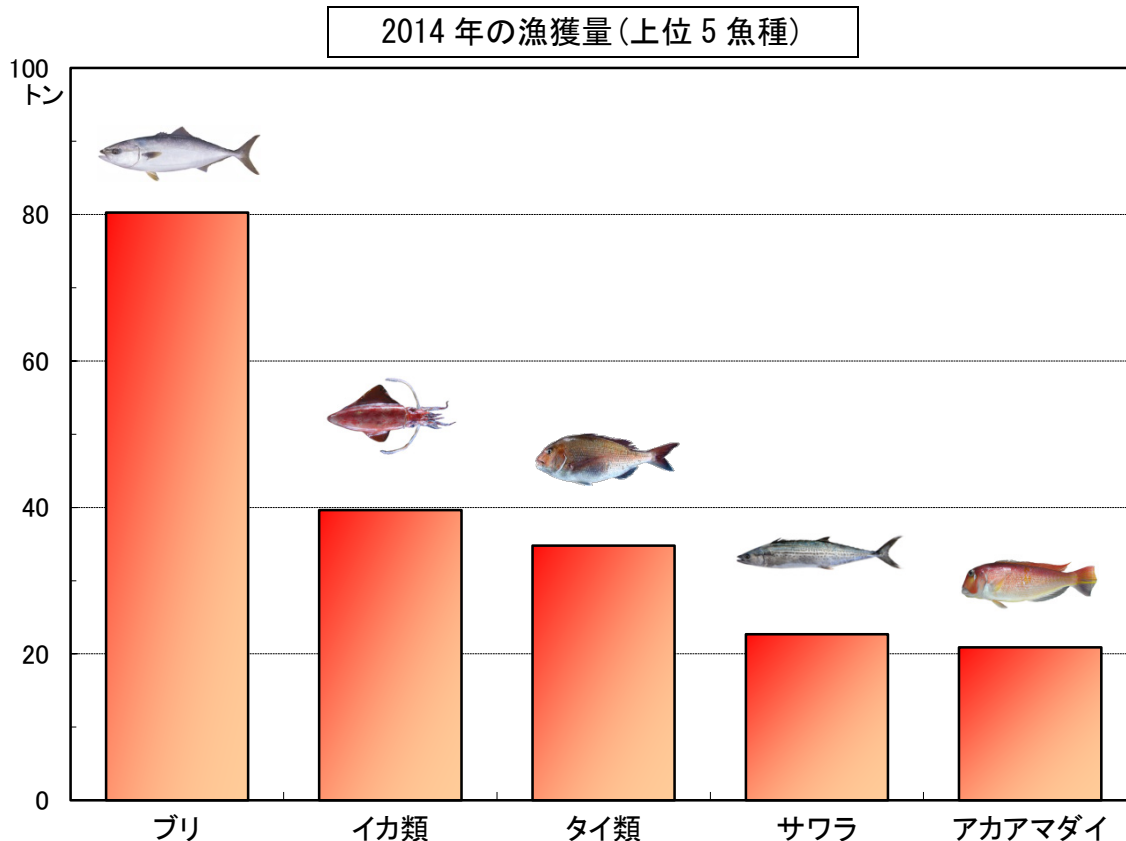


| 年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計 | | | | |
|-------------------|-------|------------|------------|--|
| 魚種 | 2014年 | 2013年(前年比) | 平年(平年比) | 備考 |
| カレイ類 | 184 | 181 (101%) | 225 (82%) | <カレイ類> アカガレイ(まがれい)が112トン、ソウハチ(えてがれい)が31トン、ヒレグロ(黒がれい)が19トン、ムシガレイ(水がれい)が10トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が10トンなどでした。 |
| ニギス(沖きす) | 110 | 102 (108%) | 103 (106%) | |
| ズワイガニ | 83 | 63 (132%) | 95 (87%) | |
| ハタハタ | 63 | 63 (101%) | 166 (38%) | |
| タイ類 | 25 | 19 (128%) | 13 (195%) | |
| 貝類 | 20 | 13 (150%) | 10 (205%) | <ズワイガニ> オス(間人がに・舞鶴かに)が41トン、メス(せこがに)が42トンでした。 |
| アンコウ | 15 | 13 (121%) | 25 (62%) | |
| エビ類 | 9 | 8 (113%) | 6 (143%) | |
| タコ類 | 8 | 10 (78%) | 14 (56%) | |
| イカ類 | 6 | 5 (109%) | 9 (64%) | |
| その他 | 39 | 37 (108%) | 42 (94%) | |
| 合計 | 561 | 513 (109%) | 707 (79%) | |

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

主な釣獲対象となる魚介類のなかでは、ブリが好漁でしたが、イカ類が低調でした。全体の水揚げ量は、平年の8割強（前年の9割弱）でした。



| 年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計 | | | | |
|-------------------|-------|------------|-----------|---|
| 魚種 | 2014年 | 2013年(前年比) | 平年(平年比) | 備考 |
| ブリ | 80 | 35 (228%) | 54 (150%) | <ブリ> |
| イカ類 | 40 | 128 (31%) | 87 (45%) | まるご銘柄が29トン、つばす銘柄が25トン、ぶり銘柄が19トン、はまち銘柄が7トンでした。 |
| タイ類 | 35 | 35 (99%) | 33 (105%) | <イカ類> |
| サワラ | 23 | 8 (295%) | 25 (92%) | スルメイカが18トン、ソデイカ(たるいか)が16トン、ケンサキイカ(白いか)が4トン、アオリイカ(秋いか)が1トンなどでした。 |
| アカアマダイ(ぐじ) | 21 | 21 (99%) | 23 (92%) | <タイ類> |
| メバル類(もいお) | 14 | 14 (101%) | 13 (104%) | マダイが22トン、キダイ(レンコダイ)が11トン、クロダイとチダイが若干量でした。 |
| ウマヅラハギ(長はぎ) | 6 | 6 (95%) | 7 (89%) | |
| マアジ | 3 | 6 (52%) | 7 (39%) | |
| ヒラマサ | 3 | 2 (113%) | 1 (402%) | |
| カレイ類 | 2 | 1 (184%) | 2 (77%) | |
| その他 | 17 | 21 (79%) | 36 (46%) | |
| 合計 | 242 | 278 (87%) | 288 (84%) | |

平年は過去10年平均

【2014 年の特異的なできごと】

冬

- ・サンマが定置網でまとまる
(1月に平年比 6.7 倍の 72 トン)。

- ・2月下旬から3月初旬にサバ類が定置網でまとまる
(2月～3月に平年比 4.5 倍の 524 トン)



- ・3月下旬から4月上旬にイルカが宮津湾や栗田湾、丹後半島周辺に多数出現

春

- ・トビウオ類が定置網でふるわず。
(5月～7月に平年比 4 割強の 80 トン)

- ・カマス類(主にアカカマス)が定置網でまとまった水揚げ。
(9月～10月に平年比 3.9 倍の 371 トン)。



夏

- ・エチゼンクラゲは5年連続で大量来襲せず
(10月～11月に定置網に少量入網した程度)。

- ・カタクチイワシが定置網で好漁
(11月～12月に平年比 7.7 倍の 534 トン)。



秋

- ・ブリ成魚が沿岸海域で不漁
(12月に平年比 1 割未満の 5.2 トン)。

- ・ダイオウイカが目撃が例年より多め。

【2014 年に見かけた珍しい生き物】

下の写真は、2014 年に丹後の海で見られたあまりなじみのない生き物の一例です。

| ダイオウイカ | リュウグウノツカイ | |
|---|---|---|
|  <p>胴長：最大 2m(標本は胴長 1.8m, 伊根町に 12/24 漂着) 分布：日本各地 特徴：巨大イカの 1 種。本年 11~12 月に定置網の混獲や漂着など 3 個体の出現情報がありました。</p> |  <p>全長：最大 10m(標本は 2.3m, 宮津市で 12/24 採捕) 分布：日本各地 特徴：深海魚とされています。近年では冬季を中心に定置網に時々入網しています。不味。</p> | |
| ベンテンウオ | クロメジナ | スナガレイ |
|  <p>体長：45cm (標本は全長 54cm, 宮津市で 12/7 採捕) 分布：主に太平洋側 特徴：シマガツオ(エチオピア)科の魚で、大きな背びれと尻びれが特徴です。食味不明。</p> |  <p>全長：最大 80cm (標本は尾さ長 38cm, 宮津市で 12/16 採捕) 分布：主に太平洋側 特徴：魚市場に入荷したメジナ(つかや)の箱に時折混じっています。えら蓋の縁が黒いことで、メジナと区別できます。美味。</p> |  <p>全長：最大 30cm (標本は丹後半島沖で 7/17 採捕) 分布：北日本 特徴：上向きに突き出した口元や、無眼側(白い側)の縁が黄色いことが特徴です。食用。</p> |
| カクレウオ | ネズミザメ | ホシセミホウボウ |
|  <p>体長：20cm (標本は全長 23cm, 丹後半島沖で 7/17 採捕) 分布：南日本 特徴：カクレウオ科の一部の魚種は、ナマコの腸内に住みつく習性があります。</p> |  <p>体長：最大 3m (標本は 75cm, 宮津市で 4/14 採捕) 分布：主に北太平洋 特徴：ネズミザメの間には、凶暴で危険とされるホホジロザメやアオザメがいます。</p> |  <p>全長：最大 35cm (標本は 17cm, 丹後半島沖で 11/12 採捕) 分布：南日本 特徴：羽のような立派な胸びれを広げて、海底付近を舞うように遊泳します。食用可。</p> |

参考文献：「新訂原色魚類大図鑑(北隆館)」「新日本動物図鑑(北隆館)」「釣魚 1400 種図鑑(KADOKAWA)」

今回、標本や情報のご提供を頂いた栗田漁業生産組合、京都府立海洋高等学校、丹後魚つ知館ほか水産業関係の皆様には感謝いたします。珍しい海の生き物を発見された場合には、当所までご一報いただくと幸いです。